

ご自由にお持ち帰り下さい



病院長あいさつ 1

ドラマ「19 番目のカルテ」からみる総合診療医 2

住み慣れた我が家で、人生の最期まで 3

高齢になるとお水でムセやすくなるのはなぜ? 4

排尿ケアサポートチーム!! 活動開始! 4

こころのサプリメント..存在を喜ぶ人 5

Medical Healthy Recipe..夏バテに気をつけよう!! 5

寄付贈呈式を行いました 6

地域医療包括ケアセンター 理念 6





病院長あいさつ

北中城若松病院 病院長

竹田 真一

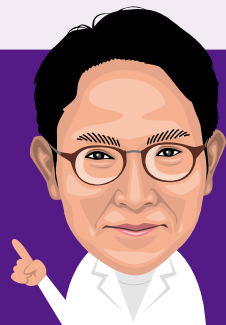


このたび、喜屋武幸男先生の後任として北中城若松病院院長を拝命致しました竹田真一と申します。就任のご挨拶を申し上げます。

私は東京生まれの66歳、日本医科大学で循環器内科を勉強しました。その後、大学の関連病院や診療所などで臨床経験を積みました。これまで何度かダイビングなどで沖縄を訪れ、自然豊かな沖縄のゆったりとした環境と県民の人々の温かさに魅了され、2000年に沖縄に移住しました。その後、那覇市やうるま市の病院勤務を経て、このたびご縁があり北中城若松病院にお世話になることになりました。これまでの経験を活かし、地域の患者さんや職員に喜んでいただける病院作りに微力ながら尽くしたいと思います。

北中城若松病院は、今後さらに進化しようとしています。急性期病院で入院治療を受けた患者さんやご自宅で発熱や体調不良で入院された患者さんが在宅復帰を目指す地域包括ケア、転倒して骨折や脳疾患などで身体活動が不自由になった患者さんのための回復期リハビリテーション、癌による痛みを和らげる緩和ケア、高齢化社会における認知症治療など地域住民のための病院を目指していきます。

アガペ会の「神の愛に生かされ、神の愛に生きる」の理念のもと、職員と共に患者ファーストの医療を実現していく所存ですので、宜しくお願い致します。



ドラマ「19番目のカルテ」からみる 総合診療医

地域医療包括ケアセンター センター長 / ファミリークリニックきたなかぐすく 院長 山入端 浩之

皆様は、9月7日に最終回を迎えたドラマ「19番目のカルテ 徳重晃の問診」をご覧になったでしょうか。このドラマでは、患者さん一人ひとりの声に耳を傾け、単なる診断名のつけ方ではなくその人の生活や背景に寄り添いながら診療を行う総合診療医の姿が描かれていました。特に「どこにも行き場がない」と感じる患者さんを見捨てず、寄り添う医師の姿は多くの方の心に残ったことでしょう。

当院でもこの「人を診る」という姿勢を大切にしています。現在、当法人には5名の総合診療医（家庭医とも呼ばれます）が勤務しています。総合診療医の役割は、症状から病名をつけることだけではありません。病名が明確に定まらないときも、状況を丁寧に聞き取り、状態を見極め、対応を検討します。内科・小児科・整形外科・皮膚科・泌尿器科など、どの診療科の症状であっても、まずは安心して相談できる存在であるために、全国の仲間と共に学び続けています。

また、総合診療医の仕事は通常の診療だけにとどまりません。ワクチン接種や健康診断、学校健診といった予防医療、地域の健康づくり活動など、クリニックの外にも赴きます。さらに0歳の乳児から100歳を超えるご高齢の方まで診療を行い、

外来通院が難しい方には訪問診療も提供しています。足腰の衰えた高齢者だけでなく、心臓や腎臓、肝臓などの内臓疾患が重度で移動が困難な方や、感染症のため入退院を繰り返す方、または、がんや神経難病をお持ちの方々へ、状態の安定化や緩和ケアも含めた診療を行っています。

ドラマでは病院で働く総合診療医の姿が描かれていましたが、大病院や急性期病院のみでなく、当院のような街中の診療所、離島やへき地、そして慢性期病院でも必要とされています。なぜなら「そこに困っている患者さんがいるから」です。総合診療医は、病名のついた疾患に対応しているだけでは救いきれない、「こぼれおちる患者」（ドラマに多く出てきました）に手を差し伸べようとします。看護師やリハビリスタッフ、ソーシャルワーカー（介護サービスなどを調整する職種）、管理栄養士、介護士など様々な職種で支えているところに、医師が疾患管理の専門家としてチームに合流する価値は高い、と実感しています。

何よりも患者さんが笑顔で居続けられるために、「こぼれおちる患者」にも手を差し伸べるために、これからもファミリークリニックきたなかぐすくは進んでいきます。

住み慣れた我が家で、 人生の最期まで ～訪問診療という選択肢～

地域医療推進統括マネージャー 医師 田木 聡一

人生の終着点、どこで迎えたいですか？

人生の終着点をどこで迎えたいか、と考えたことはありますか？多くの方が「住み慣れた我が家で過ごしたい」と願われる一方、実際には病院での入院生活を送る方も少なくありません。住み慣れた我が家で、大切な人々に囲まれ、自分らしい時間を最後まで過ごしたい。その願いを叶えるのが「訪問診療」です。

訪問診療とは？病院とは異なるその役割

私たちファミリークリニックきたなかぐすくの訪問診療は、医師や看護師が定期的に患者さんのご自宅へ伺い、診察や処置、健康管理を行う医療です。病院の機能が「治療と検査」を中心とするのに対し、訪問診療は「生活の場での医療とケア」を重視します。病気と闘うだけでなく、患者さんが安心して日常生活を送り、その人らしい人生を全うできるよう支えることが、私たちの使命です。

なぜ「自宅」が選ばれるのか？ 最期まで自分らしくいるために

ご自宅では、長年使い慣れたベッドで眠り、ご自身のペースで食事を取り、大切なご家族やペットに囲まれて過ごすことができます。入院生活では難しいその人らしい時間を、最期まで尊重できる点が大きな魅力です。例えば、「庭の花に水やりがしたい」「長年飼っている愛犬のそばで過ごしたい」といったささやかな願いも叶えられます。病院の規則に縛られず、心の平穏を保ちながら人生の終盤を過ごせることは、患者さんご自身、そしてご家族にとっても何よりの心の安らぎとなるので。

「もしも」の時も安心！

切れ目のないサポート体制

「自宅だと何かあった時に不安」と感じる方もいらっしゃるかもしれません。ご安心ください。当クリニックでは、医師や訪問看護師、地域の介護サービス事業者、ケアマネジャーと密に連携し、24時間365日体制で患者さんにご家族をサポートします。急な体調変化にも電話相談や緊急往診で対応し、必要に応じては当法人内の他部署（病院や施設など）や、協力病院への入院調整も行います。患者さんにご家族が安心して自宅で過ごせるよう、私たちはチームで、切れ目のない医療とケアを提供いたします。

選択肢を知り、共に考えましょう

人生の終盤をどう生きるか、それは患者さんご自身、そしてご家族の皆さんが選択できる大切なテーマです。「自宅で過ごしたい」という気持ちをあきらめる必要はありません。在宅療養は、これからの日本社会にとって必要不可欠な選択肢です。まずは一度、私たちにご相談ください。皆さんの「人生の伴走者」として、最適な選択肢を一緒に考えていきます。



訪問診療後に「うちのゴーヤ、持って行って！」と
自ら切り出して下さる訪問診療利用者さん
(撮影日時：2024/6/25)



高齢になるとお水でムセやすくなるのはなぜ？ どうしてトロミを付けるの？

お口のリハビリ課 屋宜 由衣（言語聴覚士）

皆さんの身近な高齢者で、お水を飲む時にムセやすくなっている方はいませんか？加齢に伴う嚥下機能（食べ物／飲み物を飲み込む能力）の低下では、水分でのムセやすさが症状の1つとしてよくみられます。

なぜ水分でムセやすくなるのでしょうか。加齢に伴い、喉の感覚や筋力が低下すると、水分が流れ込む速さに対して、“ごっくん”という飲み込みの反射／動きが間に合わず、水分が気管のほうに入りやすくなった結果、ムセているのです。

このような状態の時に、トロミ剤（増粘剤）を使用し、水分にトロミを付けます。水分が流れ込む速さに対して、喉の動きが間に合わ

ないのであれば、水分の流れ自体を遅くしようという考え方です。ここで注意してほしいのが、トロミの程度です。トロミが濃いほど良いというわけではなく、必要以上にトロミを濃くし過ぎると、喉に残りやすくなったり、窒息の危険性も出てきます。

市販のトロミ剤には一般的に「薄い／中間／濃い」と3段階あります。まずは薄いトロミから始め、様子をみながら徐々にトロミの加減を調整していきましょう。私たち言語聴覚士は、入院患者様の嚥下機能の評価や安全に食べる為のリハビリを行っています。お家でムセや水分のトロミについて、気になることがあれば、まずは外来かかりつけ医にご相談ください。



排尿ケアサポートチーム!! 活動開始!

第6病棟課長 小橋川 由美子（看護師）

第6病棟では、2024年11月より、指定研修を受講した医師・看護師、およびセラピストを含む多職種チームで排尿自立支援に向けて排尿ケアサポートチームが活動開始しています。

排尿ケアサポートチームは、尿失禁・尿閉等の排尿障害で、尿道から管を挿入（尿管）している方や尿管抜去後に排尿障害を生じることが予想される方を対象としており、一日も早く尿管を抜去することで、尿路感染の防止と排尿自立を導くことを目的としています。

チームが介入することで、ほとんどの患者様が自力排尿が出来るようになっており、尿管の抜去に至っています。なかでも一番長期で頑張ったNさんは、排尿障害で自力で尿を出すことが出来ず、尿管の抜去を諦めかけて

いました。しかし、チームと病棟看護・介護職が連携し、尿道管抜去に向けたケア介入を継続して行い、2ヵ月半ほどかかりましたが、トイレで排尿が出来るようになりました。とても喜んでいたNさんの笑顔は忘れられません。

排尿ケアサポートチームは、毎週月曜日、回診やカンファレンスを行っており、第6病棟内だけでなく、他の病棟へも横断的に活動しています。適切な排尿管理が出来るようサポートしますのでいつでもご相談ください。

存在を喜ぶ人

チャブレン室 泉川 良道

愛の人として知られているイエス・キリストのことで特筆すべきことは、彼が神と人から愛されてお育ちになったとの記述です。

愛されていたとは、彼がまず人に受け入れられる存在だったことを示しており、受け入れられる事なしに彼の影響が世界にまで広がることはなかったことでしょう。

ですから、神と人から愛されてお育ちになったことに私も引き付けられるのです。

いったいそこに何があったのでしょうか？
この隠された理由を見出す人は、良い影響力をもって生きる大きなヒントを得ることにな

るでしょう。

それは「存在を喜ぶ喜び」です。

物を喜ぶ人も多いでしょう。利益や機会を喜ぶ人、地位を喜ぶ人も多いかも知れません。しかしイエス・キリストは神を喜び、出会う人を喜んだのです。喜ぶ彼の姿を見た人たちは、純粋な形で自分自身が認められ、受け入れられていると感じたのではないのでしょうか？だから多くの人が彼を愛せずにはおれなかったのです。



チャブレン室
「こころのサプリメント」

Medeical Healthy Recipe

夏バテに気をつけよう！！

北中城若松病院 栄養課
平安名 千尋（管理栄養士）

夏場になると、「体調がすぐれない」「食欲が落ちる」などの不調を感じる方も多いのではないのでしょうか？そこで、今回は食欲が低下する暑い夏、火を使わずに簡単にできる夏バテ対策メニュー「冷や汁」をご紹介します。ご飯にかけても、素麺を入れても美味しくいただけます。

夏は暑さで疲れやすく、汗でミネラルを失いやすいため、ビタミンやミネラル、たんぱく質を取り入れ、十分な栄養補給を心がけましょう。また、食欲がない時は無理に沢山食べようとせず、少量ずつ、数回に分けて食べることをおすすめします。



- 鯖味噌缶・・・1缶
- 絹豆腐・・・300g
- 胡瓜・・・1本
- 大葉・・・5枚
- みょうが・・・3個

【調味料】

- ★ 味噌 ……大さじ1
- ★ 砂糖 ……小さじ2
- ★ 和風だしの素・・・小さじ2
- ★ すりごま ……大さじ3
- ★ 水 ……400ml

冷や汁 <材料3人分>

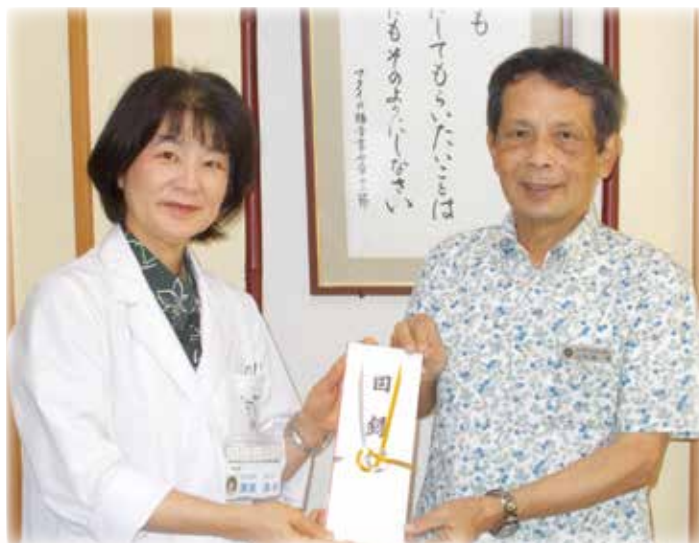
【作り方】

- ① ★を混ぜ合わせる。
- ② 胡瓜は薄輪切りにし、塩もみ（塩ひとつまみ）する。10分置き、ざっと水洗いしてしっかり絞り水気を切る。
- ③ 豆腐は水気を切り手で一口大にちぎる。
- ④ 大葉は千切り、みょうがは輪切りにする。
- ⑤ ①に鯖缶と②③を加え、混ぜる。
- ⑥ 器に盛り付け、④をのせ完成。

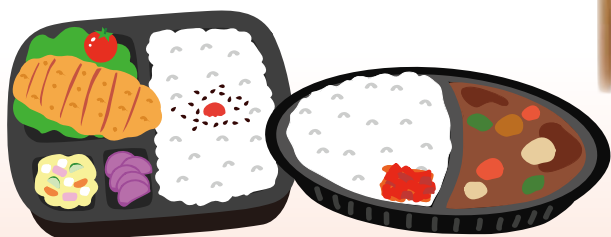
寄付贈呈式を行いました

北中城村社会福祉協議会では無料でお弁当を配布することで、地域の子ども達へ継続的な関わりを持ち、子ども達の元気サポートを行っています。

アガペ会ではその「子ども元気サポート」の活動支援として700,000円寄付致しました。これからも地域に貢献してまいります。



アガペ会理事長 涌波 淳子(左)
北中城村社会福祉協議会 会長 大城 博様(右)



Instagram始めました！

若松病院や若松苑での日常、職員の生き方などをわかばちゃんと一緒に面白おかしく実況できていけたらと思います。



地域医療包括ケアセンター 理念

医療と福祉で 地域にくらす人達の 充実した人生のために貢献する

地域医療包括ケアセンター 事業所

- | | | |
|----------------------|-------------------------|--------------------|
| ①ファミリークリニックきたなかぐすく | ⑦グループホーム わかまつ | ⑬新オレンジサポート室 |
| ②訪問リハビリテーション きたなかぐすく | ⑧看護小規模多機能ホーム 若松 きたなかぐすく | ⑭宜野湾市赤道老人福祉センター |
| ③通所リハビリテーション きたなかぐすく | ⑨アガペファミリーエ | ⑮宜野湾市伊利原老人福祉センター |
| ④ケアプランステーション ゆい | ⑩グループホーム 若松 ぎのわん | ⑯老人デイサービスセンター しおさい |
| ⑤訪問看護ステーション 若松 | ⑪小規模多機能ホーム 若松ぎのわん | |
| ⑥ヘルパーステーション 若松 | ⑫宜野湾市地域包括支援センター ふてんま | |

それぞれの施設が個性を持って、在宅や地域の方々を支えています。



アガペ会理念

アガペ(神の愛)に生かされ、アガペ(神の愛)に生きる

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい(聖書 ヨハネ福音書13章34節)

《理念の意味》 アガペとは「神様の愛」というギリシャ語です。私たち職員は、神様と周囲の多くの方々に愛されて生きてきた事を感謝し、神様が愛されている目の前の療養者・利用者とそこそご家族の皆さんの幸せ、職員とその家族の幸せ、地域社会の方々の幸せを目指して医療とケアを提供していきます。

北中城若松病院

〒901-2395 沖縄県北中城村字大城 311
☎/098-935-2277 FAX/098-935-2272

- ・地域包括ケア病棟
- ・回復期リハビリ病棟
- ・認知症治療病棟(休床)
- ・特殊疾患病棟(認知症の方も含む)
- ・認知症デイケア あしやぎ

介護老人保健施設 若松苑

〒901-2314 沖縄県北中城村字大城 327
☎/098-935-5858 FAX/098-935-5807

- ・入所療養介護
- ・短期入所療養介護
- ・若松苑デイサービス
- ・若松苑訪問リハビリテーション

地域医療包括ケアセンター

複合型高齢者施設 ふれあいの里 若松

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場 360-1

3F サービス付高齢者住宅 アガペファミリエ ☎/098-935-4165

2F グループホームわかまつ ☎/FAX/098-935-1021

1F ファミリークリニックきたなかぐすく
☎/098-935-5517 FAX/098-982-0708

B1F 通所リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-982-0717

訪問看護ステーション若松 ☎/098-935-5818

訪問リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-923-3154

ヘルパーステーション若松 ☎/098-935-5202

ケアプランステーション ゆい
☎/098-935-3066・098-935-5968

地域医療包括ケアセンター事務所 ☎/098-935-3093
クリニック以外の事業所の FAX は 098-935-5855 (共通)

看護小規模多機能ホーム若松 きたなかぐすく

〒901-2316 沖縄県北中城村字安谷屋 1346 番地 1 (1F)
☎/098-982-0181 FAX/098-982-0183

グループホーム若松 ぎのわん

〒901-2201 沖縄県宜野湾市新成 1-20-6
☎/098-892-5104 FAX/098-892-5111

小規模多機能ホーム若松ぎのわん

〒901-2206 沖縄県宜野湾市愛知 2-3-2
☎/098-892-1673 FAX/098-943-1085

宜野湾市地域包括支援センター ふてんま 新オレンジサポート室

〒901-2202 沖縄県宜野湾市普天間 1-9-3
☎/098-943-4165 FAX/098-943-4067 (ふてんま)
☎/098-943-4085 FAX/098-943-4702 (新オレンジサポート室)

宜野湾市赤道老人福祉センター

〒901-2205 沖縄県宜野湾市赤道 1-5-17 ☎/098-893-6400

宜野湾市伊利原老人福祉センター

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐 4-3-17 ☎/098-890-7131

老人デイサービスセンターしおさい

〒901-2321 沖縄県北中城村字美崎 262 ☎/098-935-5190

<https://www.agape-wakamatsu.or.jp>

※今号で使用している写真はご本人の同意を得て掲載しております

